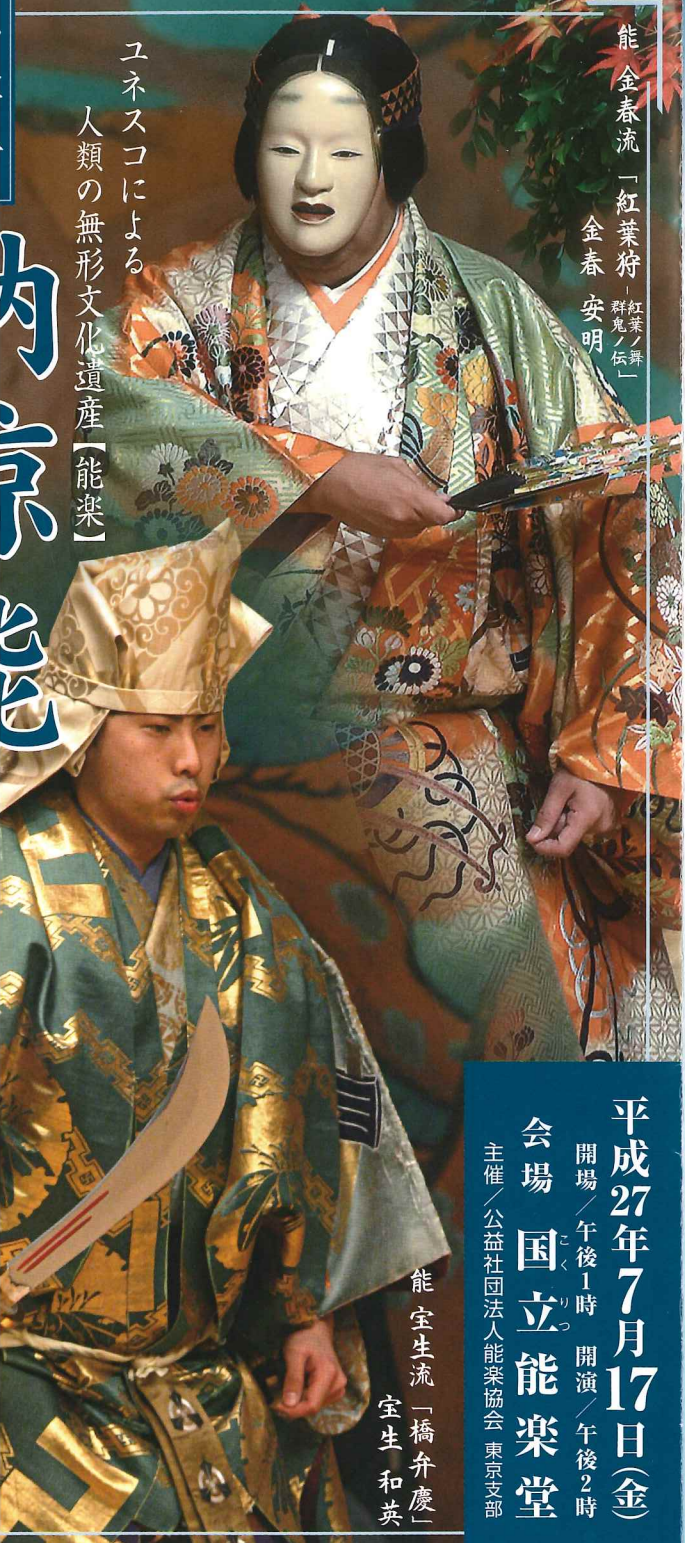


内京

ユネスコによる
人類の無形文化遺産「能楽」



能金春流「紅葉狩」
群鬼ノ伝
紅菱舞
安明

能宝生流「橋弁慶」
宝生和英

平成27年7月17日(金)
開場/午後1時 開演/午後2時
会場 **国立能楽堂**
主催/公益社団法人能楽協会 東京支部

【チケット料金】(税込) **全席指定** ※各座席区分は前ページ座席表をご参照下さい。

- ◆ 正面席 …… 6,000円
- ◆ 脇正面席 …… 5,000円
- ◆ 中正面席 …… 4,000円
- ◆ 普及席 …… 3,000円

【チケット発売開始日】

4月17日(金) 午前10時より

【チケット取り扱い】

※販売は下記に限り承ります。

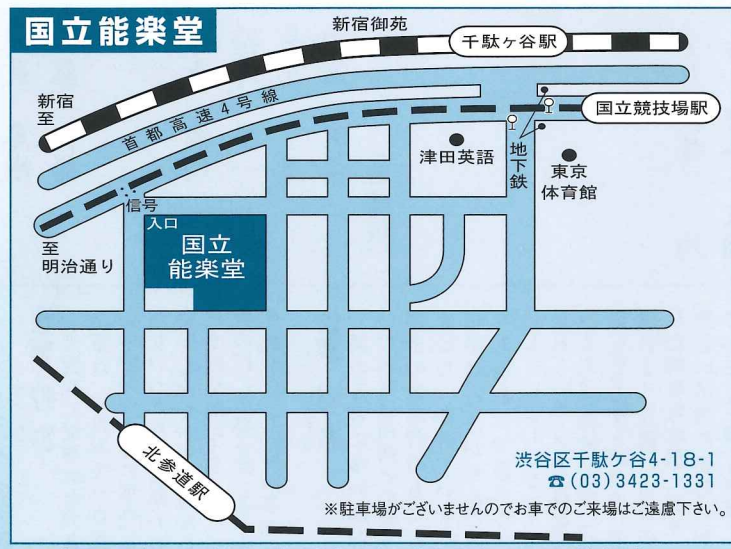
- ◆ 電話
チケットスペース ▶ 03-3234-9999 (有人対応)
※月~土 10:00~12:00 / 13:00~18:00
- ◆ インターネット
e+イプラス ▶ <http://eplus.jp/> (PC・携帯共通)
- ◆ 店頭
国立能楽堂 ▶ 窓口販売
e+イプラス ▶ ファミリーマート全国各店舗 店内 famiポート

【前売チケット発売期間】 4月17日(金)~7月14日(火)

- チケットスペースのみ7月11日(土)に終了致します。
- 前売チケットは販売期間終了前に完売することもございます。予めご了承下さい。

【当日券】 国立能楽堂ロビー受付にて 午後1時より 販売開始

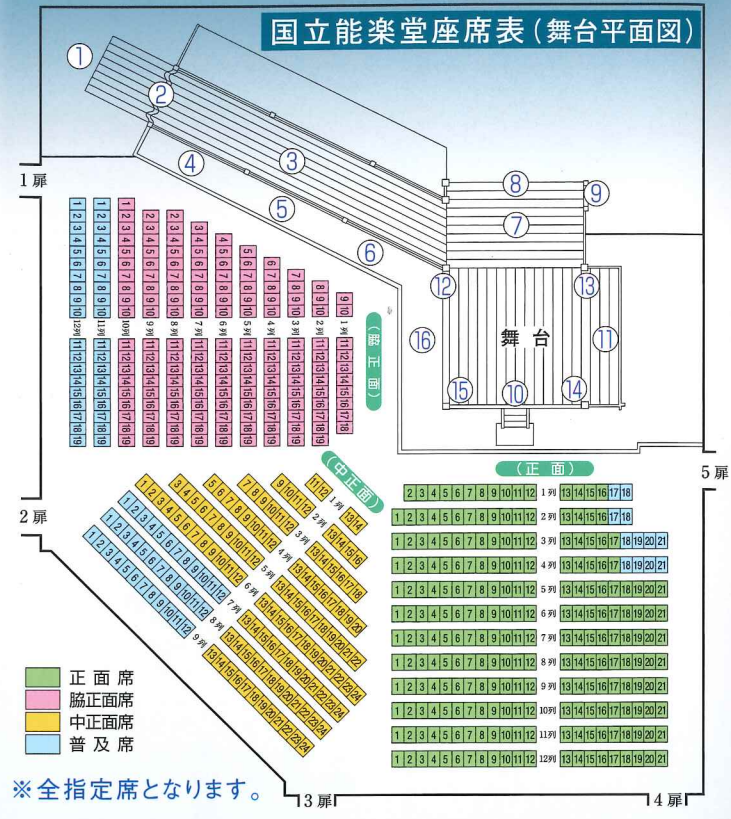
○ 残席がある場合のみ販売致します。



【最寄駅】 JR(中央・総武線) 千駄ヶ谷駅下車…………… 徒歩5分
都営地下鉄(大江戸線) 国立競技場駅下車…………… 徒歩5分
東京メトロ副都心線 北参道駅下車…………… 徒歩7分

◆ 公演に関するお問合せ ◆ ※チケット販売受付は致しませんので予めご了承下さい。
公益社団法人能楽協会 東京支部 ☎03-5925-3871 / <http://www.nohgaku.or.jp/>

国立能楽堂座席表(舞台平面図)



正面席
脇正面席
中正面席
普及席

※全指定席となります。

舞台平面図

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ① 鏡の間 | ② 揚 幕 | ③ 橋掛り | ④ 三の松 |
| ⑤ 二の松 | ⑥ 一の松 | ⑦ 後 座 | ⑧ 鏡 板 |
| ⑨ 切戸口 | ⑩ 階 | ⑪ 地謡座 | ⑫ シテ柱 |
| ⑬ 笛 柱 | ⑭ ワキ柱 | ⑮ 目付柱 | ⑯ 白 州 |

能楽堂とは
能の専用の舞台は能舞台とよばれ、日本の代表的な劇場建築といわれています。その始まりは定かではありませんが、舞台の寸法がおおかた決まっていることにより全国各地の能舞台でも、シテが面を着け、視界が狭い状態でも能が演じられるのです。
この能舞台は元々野外にあった為、演能は天候に左右されていました。その後、能舞台ごと大きな箱にすっぽりと納められ、劇場設備を整えた建物を能楽堂、または能楽会館などといいます。

番組

ミニ講座 槻宅 聡

能 (宝生流)

橋弁慶

ツレ (弁慶の従者) 水上 優
子方 (源牛若) 水上 達
シテ (武藏坊弁慶) 宝生 和英

アイ (都の男) 山本泰太郎
アイ (〃) 山本凜太郎

後見 東川 光夫
辰巳満次郎

大鼓 亀井 実
小鼓 観世新九郎 笛 一噌 隆之

地謡 小倉健太郎 金森 秀祥
大友 順 前田 晴啓
野月 聡 金井 雄資
高橋 亘 藤井 雅之

狂言 (和泉流)

悪坊

アド (僧) 三宅 右矩
小アド (茶屋) 河路 雅義

休憩 二十分

〈三時四〇分頃〉

仕舞 (金剛流)

養老

地謡 工藤 寛
山田 純夫
松野 恭憲
元吉 正巳

仕舞 (観世流)

野宮

地謡 鈴木 啓吾
梅若長左衛門
浅見 真州
加藤 眞悟

仕舞 (喜多流)

昭君

地謡 大島 輝久
狩野 了一
長島 茂
内田 成信

能 (金春流)

後ツレ (〃) 本田 芳樹
前ツレ (〃) 中村 昌弘
後ツレ (鬼女) 井上 貴覚
前ツレ (侍女) 貴覚
後ツレ (鬼女) 貴覚

〈開演午後二時〉

能 橋弁慶

武藏坊弁慶は北野の天神へ丑の時詣でを思い立ち、従者に供を申し付けます。

従者は五条の橋に年の頃十二、三歳ほどの小男が人を斬つて廻っているの、思いとどまるよう弁慶に進言します。

しかし弁慶は自分が聞き逃げしたと思われるのは口惜しいと五条の橋へ出かけて行きます。

夜の更けた五条の橋の上では牛若が橋を踏み鳴らし、通る人を待っています。

牛若は、自分のことを女だと思つて通り過ぎようとした弁慶の長刀を蹴り上げ挑発します。

弁慶は長刀を振り上げ牛若に斬りかかりますが、牛若の素早い動きに翻弄され、ついに長刀を打ち落とされてしまいます。

弁慶は牛若に降参し、互いに名乗り合い、これからは主従であると堅く約束したのでした。

狂言 悪坊

大酒飲みで乱暴者の悪坊は、長刀で脅し道連れにした僧を茶屋に連れ込みます。悪坊が寝入つた隙に茶屋からその正体を聞いた僧は、髪や髭を剃り長刀を取り上げ、代わりに自分の衣と傘を残して逃げ去ります。目を覚ました悪坊は自分の姿に驚きますが…。

仕舞 養老

雄略天皇の御世に、美濃の国の青年が山あいの清らかな滝の水を汲んで老父母に飲ませた所、見違えるように元氣になったので養老の滝と呼ばれていました。

その話を聞き訪れた臣下の前に父子が現れ、薬の水を与え立ち去ります(能の前半)。

やがて、輝く光と妙なる音楽の中山神が現れ、治まる御世を讃え、清らかに流れる霊泉に重ね合わせて君臣の和と天下泰平を祝福する舞を舞います。仕舞ではこの場面を舞います。

仕舞 野宮

光源氏に愛された六条御息所の霊は、死後も失つた愛を忍び嵯峨野の野宮跡に現れ、秋の夜露を払いつつ源氏に訪われた日を懐かしみやがて妄執から浮かび出て行くかのように車に乗り火宅の門にて姿を消します。仕舞ではこの場面を舞います。

仕舞 昭君

漢の元帝に深い寵愛を得ていた昭君は胡国との和平の為に胡王の韓耶将のもとに贈られました。連れていかれた時に昭君は「自分が死んだ時はこの柳も枯れるであろう」と言い残していましたが、すでに柳が枯れていると老父母は嘆き悲しみます。その後、故事にならつて鏡に柳を映すと昭君の亡霊が現れ、鬼のような醜い自分の姿に恥

〈四時頃〉